

城北小学校避難所運営マニュアル

平成 30 年 8 月

城北地区自主防災会

城北小学校避難所運営マニュアル

本マニュアルは、南海トラフ地震等の大規模災害時の指定避難所が、城北地区住民による自主的な避難所運営が円滑に行われるよう考慮しました。

考え方・事前準備

◎避難所運営の基本的考え方

○避難者が相互に助け合う自治的な組織主体による運営が原則

*大規模災害発生時には、市職員が対応できない場合が予想されるため、城北地区自治会・自主防災組織等の城北地区住民による運営を基本に、市職員、施設管理者が協力・支援することになります。

*運営に関する基本的役割

区 分		基本的役割
地域	自主防災組織・自治会等	・地域の特性を理解した組織力を発揮し、避難所運営の中心を担います。 ・共助の観点から積極的な避難所運営に関わります。
	避難者	・避難所開設時は、自主防災組織や市職員等の指示に基づき協力します。 ・本格的な運営に移行した時は、避難所運営組織の一員として、それぞれに与えられた役割を担当します。
市	市職員	・市対策本部との連絡調整を担当します。 ・避難所の円滑な運営をサポートします。
施設	施設管理者	・避難所施設を管理します。 ・避難所の円滑な運営をサポートします。

○様々な立場の方への配慮

*高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、病気の方、性的少数者、外国人等が安心して避難生活をおくれる様に配慮する必要があります。

*男女共同参画の視点を取り入れ、女性が安心して避難生活をおくれる様に配慮するとともに、避難所の管理運営組織に女性を3割以上加える様に努めます。

*在宅避難者、車中避難者及びテント避難者等から支援の依頼があった場合には、各種情報の提供や支援ができるように配慮します。

*仕事や観光で一時的に滞在している方は、地域住民と分けて受け入れ、各種情報の提供や支援ができるように配慮します。

◎避難所とは

○指定避難所

*城北小学校は丸亀市が指定している避難所です。避難した方が災害の危険がなくなるまでの必要な間滞在し、又は災害により家に戻れなくなった方が一時的に滞在す

る施設です。

* 食料・物資が供給される等の行政の支援があります。

○自主避難所

* 市の指定ではなく地域住民が自発的に決めている避難所です。

* 食料・物資の供給等の行政支援は、指定避難所の城北小学校経由となります。この際、市も把握に努めてくれるが、災害発生当初は、行政の支援を十分うけられない可能性があり、地域・個人での食料・物資の備蓄等のより一層の準備が必要です。

* 在宅避難、車中避難及びテント避難も同様の特性を有します。

◎避難所管理運営組織

○主要な活動

* 事前協議に基づき市職員、施設管理者が不在の場合の避難所開設（開錠）

* 避難所での生活ルールの調整（スペース配分、食料・物資の配分要領等を含む）

* 避難者の意見・要望等の調整

* 避難所運営会議の開催

○組織図・規約等は別紙

◎平素からの話し合い

○全般

* 災害当初の混乱を克服した円滑な避難所運営の開始及び様々な配慮が必要な方に対応し、かつ男女共同参画の視点での円滑な避難所運営ができるように、平素から地域で話し合っておきましょう。

話し合った内容は、記録に残し地域で共有していきましょう。

○災害当初の初動対応の手順の確認

* 地域の指定避難場所や安全な避難経路等を確認しておきましょう。

* 鍵の開錠要領（者）、食料・物資の備蓄場所、市災害対策本部との連絡要領等を確認しておきましょう。

* 避難所施設の安全確認等の手順を確認しておきましょう。

○避難所でのルールの作成

* 避難所施設の利用可能エリア等は、施設管理者に確認を要します。

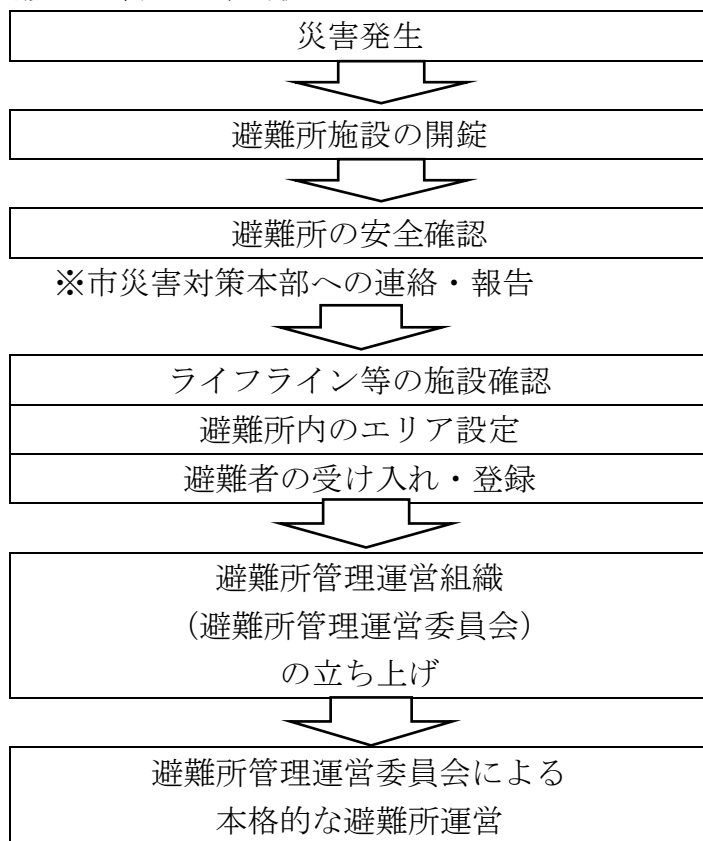
* 避難所における共通ルールは別紙。

開設期（発災～1日程度）

発災直後の混乱状態の中で、まず避難所を開設し、運営する必要があります。

◎避難所開設手順

* 避難所開設・運営の基本的流れ



* 避難所開設手順チェックリストは別紙

◎施設の開錠

* 施設管理者や市職員が不在の（直ちに避難所に到着できない）場合は、事前の協議に従って、避難所管理運営組織が避難所を開錠します。

* 城北小学校の鍵の所有者リスト

No.	氏名	連絡先	その他
1	市・施設管理者		
2	林 紘史	090-5142-6160	不在の場合（中隅純一氏）
3	詫間 健太郎	090-4332-1428	
4	運動施設開放利用者		嶋村英次氏が代表

◎避難所の安全確認

* 避難所施設への立ち入り（使用）は、二次被害防止のため、チェックリストを基に避難所の安全確認を行い、安全と判断される部分を使用します。

安全が確認できるまでは、避難者を避難所に入れることはせず、判定結果が「要注意」の場合は、市対策本部に応急危険度判定士の派遣を要請して安全を確認します。安全が確認できない場合は、避難者を一時的に安全な場所に誘導しましょう。

*避難所の安全確認チェックリストは別紙。

◎施設点検

以下について異常の有無を確認し、使用の可否を判断して下さい。

- * 消防施設
- * 給排水施設、ガス施設
- * トイレ
- * 備蓄食料・物資
- * 電気（非常用電源）、照明、空調（冷暖房）等
- * 放送施設、通信手段（防災行政無線、電話、FAX、インターネット等）

◎施設内のエリア設定

- * 施設設備の使用については、事前協議で決めたものを基本に、施設の被害状況等に応じ、施設管理者と調整して下さい。
- * 避難者が利用できるエリアと立ち入り制限エリアを明確に分けて下さい。
- * 地域コミュニティを考慮した居住スペースの配置をしましょう。
- * 障がい者、乳幼児、妊産婦等の配慮が必要な方の専用エリアを設定します。この際、可能な限り、一般の居住スペースと隔離した和室や空調施設がある部屋などを福祉避難室として設置し、配慮が必要な方のニーズに応じて割り当てます。
- * 乳幼児連れ、女性のみ避難者の専用エリアの設定又はパーテーションの設置等、プライバシー及び安全・安心に留意します。
- * 女性、子どもへの暴力等を予防するため、トイレ、更衣室、入浴設備、授乳室、洗濯物干し場等の設置場所は、昼夜を問わず安心して使用できる場所を選ぶとともに照明を設置し、適時、巡回して下さい。

◎避難者の受け入れ

○受付・避難者の把握

- * 避難者を避難所に入れる前に、入口付近に受付を設置します。
- * 受付で、世帯毎に避難者名簿に記入してもらい、避難者を把握します。この際、継続的に避難者数を把握するとともに、特に高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、病気等の配慮が必要な方は、早期に福祉避難所、病院への入所が必要になる場合もあるので、的確に把握して下さい。
- * 高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、病気の方等の配慮が必要な方を優先して避難所内に誘導して下さい。この際、早い者勝ちではないことを周知して下さい。
- * 避難所でのルールを配布・掲示・説明等により、周知して下さい。
- * 指定避難所は、地域の支援拠点でもあるので、在宅避難者・車中避難者等についても名簿の作成が必要です。

○避難者名簿の管理・留意事項

- * 個人情報保護の観点から名簿の管理は、慎重にして下さい。
- * 公開を希望した避難者の氏名・住所は、一覧にして掲示する等により、安否確認に

活用して下さい。

- *避難者の中には、配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の恐れのある者が含まれるので、名簿の管理を徹底して下さい。
- *問い合わせには即答せず、問い合わせ者の連絡先等を聴取して、避難者側から連絡するようにして下さい。
- *避難者が退所する場合は、退所届により、退所後の所在を明確にして下さい。

◎市災害対策本部への連絡

- *第1報（開設後速やかに）
避難所の開設後、速やかにコミュニティセンター、市災害対策本部に避難所開設の報告をする。
- *第2報（発災後6時間を目途）
- *第3報（発災後12時間を目途）
- *市災害対策本部の連絡先

防災行政無線 FAX	① FAXに原稿をセットする（送信面が裏） ② 「0」（ゼロ）ボタンを押す ③ 「スタート」ボタンを押す ④ 原稿の読み取りが始まり、自動で終了する
一般 FAX	0 8 7 7 - 2 5 - 4 0 0 7
防災行政無線電話	① ハンドセットを外し「カクセイモード「ローカル」」の表示を確認 ② 「切替」ボタンを押して「ツウワバンゴウ？」の表示を確認 ③ 「01」（市災害対策本部）を入力 ④ 「発信」ボタンを押して話す ⑤ 通話後、「終話」ボタンを押す ※市災害対策本部以外は、呼び出せません
一般電話	0 8 7 7 - 2 4 - 8 9 4 6
メールアドレス	Kikikanri-k@city.marugame.kagawa.jp

※基本的な連絡方法は、FAX としますが、使用できない場合は、電話、メールを使用し、それも使用できない場合は、伝令によることも検討しなければ？

◎避難所開設の広報

- *避難所が開設されたことを地域の住民に周知・広報します。
- *手段は、防災行政無線スピーカー、ハンドマイク等を活用します。

◎食料・物資の提供

- *当初の1日分（基準）は、基本的に、小学校区単位で城北小学校に分散備蓄している食料・物資を使用します。

*上記の補完として、各自治会、自主防災組織及び各家庭の備蓄品を持ち寄り、使用することも考えておかなければならない。

◎避難所運営の記録

*運営の記録は、事後検証等に役立てるために整理・保管しておいてください。

生命確保期（発災1日後～1週間程度）

この時期は、発災直後に避難・救助により助かった避難者の生命・身体を守る救命救急の実施、避難生活に不可欠な命を繋ぐための食料・飲料水の提供、継続的な治療が必要な方に対する医療機関との連携による対応を確実に実施することが最優先となります。

◎避難所管理運営組織の編成

○全般

- * あらかじめ定めておいた組織図・名簿・規約に基づき避難所管理運営委員会を速やかに編成します。
- * 発災直後は、市職員や施設職員が中心になっている場合もありますが、出来るだけ早期に住民による自主管理体制に移行した避難所は、運営がスムーズで避難者の自立も早かった様です。

○委員会

- * 委員会の会議は、避難所が閉鎖されるまでの間、市災害対策本部との連絡調整事項についての協議や、避難所内でのルールの決定・変更、避難所での課題・問題への対処など、情報の共有化を図ると共に、避難所運営を円滑に進めるため、毎日定期的に行うことが必要です。

○避難所運営班について

- * 避難所運営班は、避難者で編成し委員会の具体的な業務の執行、運営にあたります。
- * 班編成にあたっては、班責任者等に男女両方を配置するとともに、特定の活動（例えば、炊き出しや清掃等）が片方の性に偏るなど、性別や年齢等により役割を固定化することが無いようにして下さい。
- * 交代制等により、個人に負担が偏らないようにして下さい。

◎市災害対策本部への連絡

- * 発災1日後となる第4報以降から、市災害対策本部が指定する、時間に定期的に報告します。
- * 発災1日後からは、避難者が親戚等を頼って避難所を退所したり、自宅避難していた者がライフラインの寸断等の理由から避難所に入所するなど、避難者の移動が始まり、また、避難が長期化するに伴い、避難者のニーズは変化することから優先事項を的確に把握して報告することが求められます。

◎支援物資

○食料・物資の要請

- * 発災2日目からは、基本的に市災害対策本部から送られる食料・物資を使用します。そのため、市災害対策本部に食料・物資を要請します。
- * 市全体で物資が不足している可能性もありますので、必要な物資を的確に把握し、余剰物資が発生しないように注意して下さい。

*避難所は、地域の支援拠点であることから、物資要請のある在宅避難者等についても把握し、要請して下さい。

○食料、物資の管理・配布

- *配布にあたっては、一定のルールを定めて不公平とならないよう留意して下さい。
- *生理用品や女性用下着の配布は女性が行うなど、物資の配布方法・場所に留意して下さい。また、性的少数者にも留意して下さい。
- *物資は、簿冊等により適切に管理し可能な限り施錠のできる場所で保管して下さい。
- *不要な救援物資が到着した場合は、かえって妨げとなる恐れがあることから、原則として受領を拒否して下さい。
- *食物アレルギーの防止等の食料や食事に関する配慮
 - ◇食物アレルギー患者が安心して食べることができるように、食料の原材料を明示して下さい。
 - ◇周囲の者が、食物アレルギー患者を認識できるような表示を行い、相互に誤食事故を防止する処置をとってください。
 - ◇文化・宗教上の理由により外国人等の避難者が食べることのできない食料がある場合は、可能な限り配慮した食事として下さい。

◎避難者の健康・衛生管理

○全般

*避難生活が長期化するにつれ、災害のショックや慣れない環境での生活などにより体調を崩したりする避難者が増加したり、トイレやごみなどの衛生面の問題が顕著となります。そのため、避難所の生活環境が良好に保てるよう、十分配慮する必要があります。

○環境整備

- *妊産婦、高齢者や障害のある方も安心して生活できるよう例えば、階段への手すりの設置、簡易トイレの設置等を行って下さい。
- *定期的に換気して下さい。
- *高齢者の転倒を防止するために、適切な幅の歩行通路を確保して下さい。
- *避難所施設内は、禁煙として下さい。
- *ペットは、居住スペースと分ける等の工夫をして下さい。
- *消灯時間等を決め、規則正しい生活リズムとして下さい。
- *トイレ、洗面所、入浴施設の衛生面に注意して下さい。
- *定期的に清掃して下さい。

○感染症予防対策

*集団生活を行う避難所生活では、大勢の避難者や関係者が出入りするため感染症が集団的に起こりやすいので、マスクの配布、手指消毒液の配置等の感染症への配慮が必要です。

*市とも連携して感染症の疑いのある者を早期隔離できるような救護室の設置や救急搬送に備えた医療機関との連携を図ることが望まれます。

*インフルエンザ対策

◇患者が発生した場合は、感染が拡大しないように救護室（他の避難者とは別室）を設置して下さい。

*感染性胃腸炎対策（ノロウイルスによる場合）

◇患者の糞便・吐物等の処理の際に、人の手・雑巾・バケツ・洗い場などが汚染されます。ノロウイルスは、乾燥すると容易に空気中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、患者の糞便・吐物の処理方法、トイレ・洗面所等汚染された場所の消毒を適切に実施して下さい。

◇手洗いを徹底して下さい。

*食中毒予防対策

【炊き出し等の受け入れ時は、以下に注意して下さい】

◇外箱等の表示確認（調理月日及び時間、製造者所在地及び氏名）

◇従事者の手洗い（水洗、アルコールスプレー等の活用）

◇内容物の確認

◇喫食限度時間の確定及び外箱への記入

【炊き出し保管時は、以下に注意して下さい】

◇清潔な冷暗所等の専用保管場所

◇喫食限度時間順に整理・保管・提供

◇喫食限度時間オーバー製品の破棄

【配食時は、以下に注意して下さい】

◇従事者の手洗いの実施

◇配食時の品質確認

◇一食分のみ配食（残さないようにする）

○医療品の確保

*避難者の中には、医療用医薬品の服用が必要な避難者がいることから、市とも連携して医療救護班や薬剤師と連携して下さい。

○し尿処理

*トイレの消毒、清掃等の衛生管理に努めて下さい。

*トイレを使用する場合、断水している際は、生活用水（プールや井戸等）を確保した上で使用して下さい。

*仮設トイレ、簡易トイレ等を使用する場合、設置場所の選定には安全性等に十分留意して下さい。

○ごみ処理

*事前にごみの収集・集積可能な場所を選定しておいて下さい。

*市災害対策本部（清掃部門）と連携し、ごみの排出ルール（ごみの集積場所、ごみ

- の分別要領、ごみの収集日時、ごみ集積場所の清掃担当等) を確立して下さい。
- * 害虫対策などの衛生管理を徹底して下さい。

◎相談体制の確率

- * 避難者の不安、疑問、不平不満等に、個別に相談できる窓口を設置し、避難者の避難生活に対するストレスの軽減に努めて下さい。
- * 女性に対する暴力が懸念されることや、男性の精神面での孤立が課題となってくるなど、男女や性的少数者それぞれの不安や悩みに対応することが必要となります。
- * 妊産婦、乳幼児を抱えた家族等の様々な避難者が相談しやすいよう、市とも連携して専門家や男女両方の相談員を配置したり、相談室を設けるなど気軽に相談できる体制を作ることが望まれます。
- * こうした相談体制を確立することは、避難者の早期自立に繋がることにもなります。

◎福祉避難所対象者の確認

- * 避難者のうち、一般の避難所では生活することが困難な福祉避難所の対象者については、避難行動要支援者名簿の活用及び保健師の巡回等により確認し、できるだけ早期に福祉避難所へ移送する必要があります。

◎プライバシーの確保

- * 出来るだけ早い段階に、世帯単位でダンボールパーテーションなどの間仕切りにより、プライバシーを確保して下さい。但し、死角が生じないように配置・高さ等に留意して下さい。
- * 救護室、更衣室、授乳室、女性専用トイレ、洗濯場等は、女性や性的少数者などの様々な配慮が必要な方の視点でのプライバシー確保に努めて下さい。
- * 原則として、避難者以外は、避難者の居住区域への立ち入りは禁止して下さい。
- * 避難者への来訪者については、担当受付で避難者を呼び出し、所定の来客場での面会として下さい。
- * 郵便物等については、原則、配達員や宅配業者から直接避難者へ手渡して下さい。

◎避難者への情報提供等

○全般

- * 避難者にとって、情報が断絶していることは不安を助長することとなるので、避難者への情報提供や避難者相互の安否確認、避難所外避難者の情報入手を行うため、出来るだけ早期にラジオ、テレビ、電話、FAX、インターネット等の通信手段を確保する必要があります。

○避難者に対する情報提供内容

- * 安否情報
- * 食料・物資の配給情報
- * 医療・救護情報
- * ライフラインの復旧情報
- * 生活再建に向けた情報
- * 応急仮設住宅に関する情報
- * 避難所管理運営委員会の決定事項等に関する情報

○避難者に対する情報伝達手段

- * 避難者の見やすい場所に掲示板を設置
- * 館内放送、防災放送、広報誌の配布等

○留意事項

- * テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等あらゆる手段を利用して情報収集して下さい。
- * 災害時には情報が錯綜することから、情報担当窓口を一本化し、情報の混乱を避けて下さい。
- * 災害時には虚偽情報も多いことから、収集した情報は整理のうえ、最新かつ正確性を期して下さい。
- * 避難所の避難者だけでなく在宅避難者等の地域住民に向けた情報提供にも留意して下さい。
- * 伝達した情報は整理し、保管して下さい。
- * 避難者同士が情報交換できる伝言板等を設置して下さい。
- * 定期的に他の避難所との情報共有を図って下さい。

◎二次災害の防止

- * 地震等の大規模災害では、余震等により、再度、大規模災害が発生する可能性があります。責任者や警備班等は、定期的に施設等を巡回するなどし、施設等の異常の有無を確認して下さい。
- * 異常があれば、市災害対策本部に速報するとともに、避難所として継続使用できないような場合は、早期に別の避難所へ移動するなどの対応を講じる必要があります。

◎防犯・防火対策

○全般

- * 避難所には、食料や物資の配給を受け取る方をはじめ、様々な方が訪問します。窃盗や性的犯罪等の発生も懸念されるため、警備班による定期的な巡回警戒のほか、警察官等の立ち寄り警戒を依頼して下さい。
- * 集団生活においては火災の危険性も増大するため、火気の取り扱いについて一定のルールを定め、火気の管理を徹底して下さい。

○留意事項

- * 原則として、避難者以外の避難者の居住区域への立ち入りは、禁止して下さい。
- * 巡回警備は、複数で行って下さい。
- * 定期的に巡回警備を行う事に加え、不定期な巡回警備や常時人がいない場所等への巡回警備を実施して下さい。
- * 通路や階段などの避難経路には、避難又は火災防止のための支障となる物品等を置かないで下さい。
- * 飲酒・喫煙コーナーを設置する場合は、施設管理者と協議して下さい。

- *暴力行為・迷惑行為を行った者に対しては看過することなく、警察に通報するなど厳正に対処して下さい。

◎マスコミ、訪問者対応

○全般

- *避難所が開設されると、マスコミによる取材依頼や訪問者の来所依頼が多くなることが想定されます。不特定多数の者が避難所に入出入りすることは、防犯上で問題があり、また、避難者に過度のストレスを感じさせることにもなるため、留意が必要。

○留意事項

- *原則として、避難者以外の避難者の居住区画等への立ち入りは禁止して下さい。
- *安否確認は、避難者名簿等で行い、居住区画等への立ち入りはさせないで下さい。但し、避難者名簿に公開することを可とした者についてのみ回答して下さい。
- *避難者の中には、配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の被害を受け、加害者から追跡されて危害を受ける恐れのある者等が含まれることもあるので、特に安否確認時には身分確認を徹底して下さい。
- *責任者や管理班責任者等を担当窓口とし、市災害対策本部にも協議のうえ対応して下さい。
- *居住区域での撮影は、避難者の居宅内と同様であることから原則禁止とし、当該居住区域に避難している避難者の全員の同意がある場合のみ許可して下さい。
- *取材内容については、内容を記録して下さい。

◎ペット対策

○全般

- *動物愛護の観点だけでなく、避難者である飼い主の安全確保や放浪動物による人への危害防止、生活環境保全の観点からも、飼い主がペットと同行避難することが原則ですが、避難所では動物が苦手な方や、アレルギーの方を含む多くの避難者が共同生活を営んでいることから、留意が必要です。

○留意事項

- *ペットの鳴き声や、臭い、毛の飛散等の衛生面に配慮し、ペットの飼育場所を別に確保して、原則として、人が生活する場所と分けて下さい。
- *ペットの飼育管理は飼い主の責任として、飼い主にはペットの飼育マナーを遵守し、飼い主同士等で周りの人に配慮したルール作りに努めることを徹底して下さい。

◎ボランティアとの連携

○全般

- *避難者への救援物資の配布、避難所の運営や炊き出し、配慮が必要な方の安否確認やきめ細かな在宅生活支援等、災害時においてボランティアが果たす役割は極めて大きいことから、ボランティアの自主性を尊重しながら積極的に連携する必要があ

ります。

- * ボランティアが活動しやすく、かつ避難者が安心して受け入れられるように、留意して下さい。

○留意事項

- * 避難所のニーズを的確に把握し、ニーズに応じたボランティアを地域ボランティア支援本部等へ依頼して下さい。
- * 避難所に直接ボランティアの申し出があった場合は、ボランティア支援本部等を介するように説明して下さい。
- * ボランティア保険の加入の有無について確認して下さい。
- * 避難者に対して不安を与えないよう、ボランティアと分かる腕章等を着用させて下さい。
- * ボランティアは、原則として避難所管理運営委員会の構成員とはしないで下さい。但し、委員会で認めた場合はこの限りではありません。

◎市職員・ボランティア等の派遣依頼

- * 市職員・ボランティア等の派遣依頼票は別紙様式

生活確保期（発災1週間程度以降）

この時期は、毎日の生活に落ち着きが戻り、次第に生活が安定し始め、避難者自身による自治的な運営が行われる時期ではありますが、避難生活の長期化に伴って避難者の心身の抵抗力が低下する時期でもあります。

また、避難所が生活場所としての性格が強まってくることから、ますます避難者のニーズが多様化し、よりきめ細かい対応が求められることとなります。

◎避難所の運営

- * 基本的に生命確保期と同様ですが、避難者の生活再建という最終目標を視野にいれ、その対応力の向上につなげていくことが重要です。
- * 避難者による自主自立の推進に努めて下さい。

◎支援物資

- * 避難者にとって必要な物資は、時間の経過とともに変わってきます。性別や年齢等によるニーズの差が発生することに留意し、引き続き、女性も参画した継続的なニーズの把握に努めて下さい。

◎健康管理

○栄養バランスへの配慮

- * 避難者への食事の提供は、非常食から炊き出しや配給などに移行されますが、避難生活が長期化すると同じような食事に偏りがちとなります。栄養士等のアドバイスを受け、栄養バランスのとれた食事を提供する様にして下さい。
- * 食物アレルギーの方等には、献立を表示するなどの配慮が必要です。

○保健師等による巡回指導

- * 避難生活が長期化すれば体調を崩し易くなることから、保健師等による巡回指導を要請するなどし、避難者の悩みや健康相談などを行う必要があります。
- * 把握した内容等は確実に引継ぎを行って情報の共有化を図り、避難者の継続的な健康管理が行えるように努めて下さい。

○疾病の予防

- * 避難生活の長期化に伴い、生活範囲が限られることによる運動不足、慣れない集団生活等の環境変化により生ずる体調不良等の防止のための保健指導、健康教育を実施して下さい。
(エコノミークラス症候群や生活不活発病の予防、健康体操等)

○心のケア

- * 発災直後の初期医療が落ち着いてきた時期から、避難者のPTSD（心的外傷後ストレス障害）等の心の病気に対するケアが必要となります。保健師等による避難所巡回指導は、避難者の心のケアには欠かせないものであり、医療関係者の人員確保のた

め、市と連携を図って下さい。

*子どもの心のケアは、大人とは異なる対応が必要となる場合があります。普段と違う言動や反応がある場合など、心配な様子があれば保健師等による対応が必要です。

◎生活環境の確保

○居住環境への配慮

*居住環境を整えることは、避難者の心身の健康を保つことに大きく影響します。室内の温度管理や通路等の整理整頓による高齢者や乳幼児の転倒防止等の安全確保、定期的な清掃を行って下さい。

○入浴環境

*避難生活において入浴環境を確保することは、衛生上重要な問題となります。出来るだけ仮設浴場・シャワー施設を避難所に設置することが望まれます。

◎相談体制の充実

*長期間の避難所生活を継続されている人の多くは、退所後の住宅確保や就労先の確保など、健康上の不安以外の多くの問題を抱えています。

市と連携して、避難者の生活再建に向けて必要な多様な相談支援を行うことができるよう、心のケアと平行して就労支援等の相談窓口を設けることが望まれます。

閉鎖期

この時期は、周辺のライフラインが復旧し、その地域の本来の生活が再建可能となるため、避難所生活の必要性がなくなります。また避難者の生活再建、避難所施設の本来業務の再建に向けての対応が必要です。

◎避難者に対する周知

- * 避難所の閉鎖・統廃合については、ライフラインの復旧、流通の回復、居所の確保等が目途となりますが、市と連携して、避難者にあらかじめその旨を周知しておき、自立に向けた意識を持ってもらうことが大切です。

◎避難所の統廃合

- * 避難所は、可能な限り早い段階で、避難者の理解を得て、施設内、避難所間の統廃合を行うことが望まれる。
- * 学校においては、教育再開のために教室の復旧を優先します。

◎避難者の現状把握

- * 市と連携して避難者との定期的な面談を行い、避難者のおかれている現状の把握に努め、問題解決に向けて関係機関との調整を行って下さい。
問題解決活動を行うことは、避難者の自立を促すこととなり、避難所の早期解消に繋がります。

◎閉鎖

- * 全ての避難者の退所動向が把握できれば、閉鎖期日を明示し、ボランティア等の協力を得ながら、避難者の退所を支援して下さい。
- * 全ての避難者が退所した時点で閉鎖することとなりますが、閉鎖の判断は、市災害対策本部、避難所管理運営委員会、施設責任者等で協議して行います。
- * 運営時の記録は、事後検証等に役立てるために保管しておいてください。